

# A分科会 「チームで進める方法」



NPO法人 たすけ愛京築 阿部かおり  
嬉野市第1層生活支援コーディネーター 溝口道昭

## チームとは

チーム：

「**共通の目的や目標**の為に協力して行動するグループ。」

スポーツや仕事の場面で多く使われる。

生活支援体制整備事業では・・・

⇒ **協議体**

⇒ **居場所づくりに向けた話し合いの場**

⇒ **移動支援の実現に向けた話し合いの場**

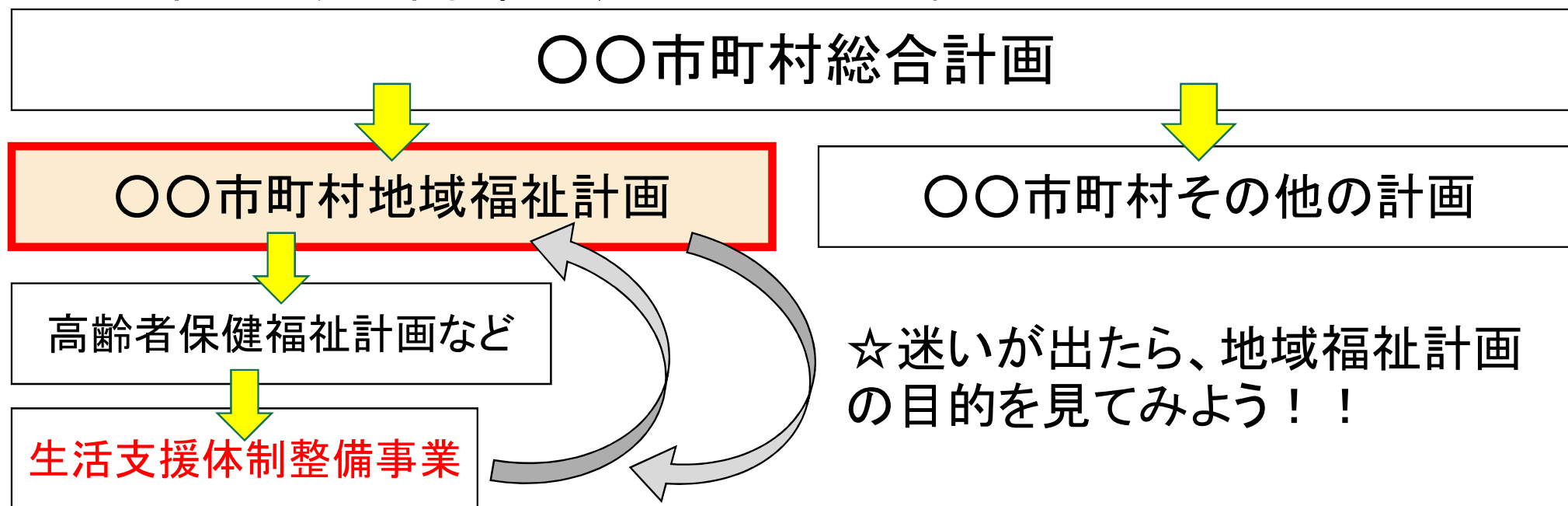
などがチームとして考えられる。

## それぞれの市町村の地域づくりの素

チームづくりを考える前に・・・あなたのまちの「地域福祉計画」知っていますか？

### 「地域福祉計画」

- ⇒ それぞれの地域が進むおおきな方向性、進路、予算の根拠
- ⇒ わたしのまちが何を考えているかを示したものの  
基本理念、基本目標が定められている。



## チームづくり STEP①(働き掛け)

### ○先ずは地域への働き掛けが必要！！

でも・・・疑問や悩み、不安でいっぱいになっていませんか？

住民や団体に興味をもってもらうためには・・・

不安

どんなアプローチが必要？  
どのように集めたらいいの？  
どのように働きかける？

焦り

疑問

心配

悩み

人は不安や心配が大きくなると行動を起こせなくなる・・・

生活支援コーディネーター心構えの極意

極意!!



気楽に

極意!!



気軽に

極意!!



気長に

極意!!

## チームづくりの考え方

「皆が元気に過ごせるよう、

地域に気軽に寄れる居場所があれば良いな～」

※「居場所をつくらないといけない」「介護予防をさせるために」

「色々な人の話が聴ける場(協議体)が欲しいな～」

※「協議体をつくらないといけない」



**POINT**

やらされ感ではなく、**自分が地域のために何をしたいのか!**

目的・目標をハッキリさせる。

- ⇒ その目的の為に必要な団体や人、手段を集める、探す。  
(パズルのピースを揃える)
- ⇒ 集まった、あるいは集めたピースがチームになる。
- ⇒ その中心に共通の理念や目的を掲げる  
(皆をくっつける強力な接着剤になる)

## チームづくり STEP①(働き掛け)

どのようにして仲間になってもらうか？

### ○**地域へ出かけ、直接口説く**

「こういうことを地域でしたいので一緒にやってくれませんか？」

- ✓自分が地域でしたいことじゃないと、相手の心に響かない。心に響かないと動いてくれない。だからこそ、自分が地域で何をしたいのかを明確にしないといけない。
- ✓集団へ働きかけるよりも、一対一で相手の想いを聴くのがだんぜん近道

### ○**必要な物**

事業に関する資料、企画書、データ等(特にその地区の情報は大切)

**+** **夢**や**希望**

**夢や希望の共有は未来を共有すること**

## チームづくり STEP①(働き掛け)

### ○口説くための訪問は2度、3度でも

- ✓1回目はかなりの確率で振られるので落ち込まない。  
相手の立場になると・・・

もっとよく理解してからじゃないと・・・  
重大な事なので荷が重い・・・  
他の誰かにも相談したい・・・  
果たして自分に務まるだろうか・・・



背景にあるのは、不安、心配、疑問 ⇒ SCと一緒に。

だからこそ、**気楽・気軽・気長**に！

- ✓多くの人が振られることに慣れていない。だからすぐに諦める。熱意が伝われば3回通えば了承をもらえる。
- ✓ただし、だめと思ったら見切りをつける勇気も大切。



## チームづくり STEP①(働き掛け)

### ○この人(団体)だという人に断られたら

- ✓だめなんだと思わない、落ち込まない。
- ✓選択肢の一つがなくなっただけ。
- ✓新たな選択肢を考えれば良いだけで、更に良い選択肢が見つかることも。

**「失敗と成功は裏腹になっている。みんな失敗を恐れるから、成功のチャンスも少ない」**

本田宗一郎

### ○ある程度の人数が集まったら

- ✓最初から理想のメンバーが全員揃う必要はなく、活動を行ってみる。
- ✓途中でメンバーの出入りが自由な雰囲気をつくり、柔軟な運営にする。

## 寄り道

### ○**雰囲気は伝染する**

会場の中に、否定的な意見を言う人、やる気を削ぐ発言をする人がいると全体の雰囲気が非常に悪くなる・・・その人を疎外せずに、しっかりと意見を聞いて見よう→理由がきつとあるはず

⇒ 雰囲気の正体は

**感情**

感情は伝染する。

**大きな声、明るい表情、夢、希望**

明るさが雰囲気を変える最大の武器

## チームづくり STEP②(チームづくり)

### ○メンバーが揃ったら、集団をチームにしていく

1. 地域の情報共有(現状、課題、地域福祉計画…)

2. 自分たちの理念をつくる

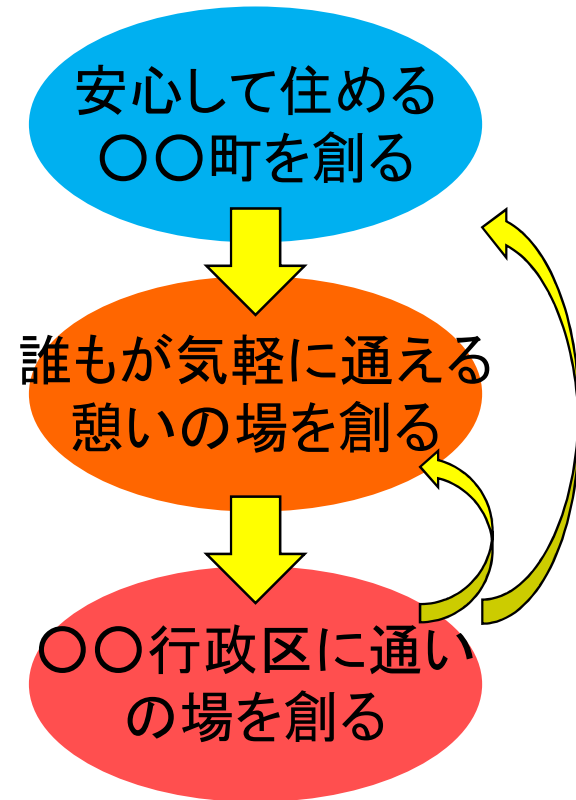
⇒ 地域福祉計画が参考になる。

3. 理念を実現していくために何が必要か決める

⇒ 活動目標(活動の柱)の決定

4. 地域の課題を解決していくために何が必要か決める

⇒ 活動計画(具体的な活動)の決定



## 理念の存在

### ○理念の存在がチームを一つにする！！

理念(ビジョン)とは、チーム(協議体など)のメンバーが力を合わせて実現をめざす、夢のあるゴールであり、チームが目指すべき方向性のことで、チームの存在意義とイコールである。

簡単に言うと、「**自分たちは、何のために存在しているのか**」あるいは、「**自分たちは誰のために存在しているのか**」を示したものが理念である。

そのため、理念がはっきりと掲げられないと、参加者個々が勝手に行動してしまう。あるいは、参加者が力を発揮できないなど、さまざまな問題が生じる。

参考:「9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方」

**理念はありますか？**

## チームのカタチ

### 「第1層協議体」

・・・広域的で、二層協議体からの提案を決定もしていく場なので、メンバーは固定の場合が多い。

⇒ 市町村の様々な視点の情報をもとに理念や活動目標をしっかりと定めていないと、あったらいいなと思うサービスを提案出来なくなる。

### 「第2層協議体」

・・・固定化する必要はなく、扱うテーマによって出入り自由な形が良い。

⇒ ○○地区の居場所づくりを考える会(プロジェクトチーム)等がそのまま2層協議体という位置づけにも成りうる。

⇒ 日常生活圏域を扱うことで、活動の目標・目的は明確になりやすい。何の為のチームであるかも明確となっているので、メンバーがチームになるのは比較的容易。

## チームづくり STEP②(チームづくり)

### ○地域アセスメントの意義 PDCAを有効に使ってみよう

⇒ 地域の情報、課題の共有 = 問題意識の共有 ⇒ 仲間意識の醸成

#### 「アセスメントの内容」(例)

- ・社会情勢(人口、高齢化率、要支援要介護者数、介護人材など)
- ・地域資源情報(人、場所、物など) ・住民ニーズ及び地区の課題
- ・地理(災害等への備え) ・地区の歴史や伝統や祭り など

⇒ SCのアセスメント内容を基に、活動目標の中身を具体的なものにしていく。

✓アセスメント不在だと、住民のニーズからではなく、メンバーそれぞれの感覚や経験、想いだけで活動が決まってしまう。結果、活動が根付かない、継続しないことになる。

✓活動自体を決めることが出来ない。あるいは、何をしたいか分からなくなる。

## チームづくり STEP③(チームの運営)

### ○**チームメンバーが揃い、活動計画も立ち動き出したら**

- ✓バトンはチームメンバーに渡し、SCや行政は一步下がって見守りの体制へ。
- ✓「こうなって欲しいなー」という目線は持っていても、その通りにならなくていい。むしろなったらラッキーくらいに考えてみよう。
- ✓SCや行政の考える理想のカタチにはめようとしたら、住民側にやらされ感が出てきて活動が楽しくなくなり続かなくなる。

### ○**チームの潤滑油となるもの**

- ✓全てのチームにおいて機能不全をきたすのはコミュニケーションの欠如。
- ✓コミュニケーションは「共有すること」、その共有できるための素材の提供はSCの大きな役割の一つ。例えば、メールやSNSの活用とか。

## やってみようチームづくり(グループ演習)

○**グループ演習:「チームをつくろう」**

○**内容:**

以下の①～③のテーマに対して、どのようなチームを作ればいいのかをグループで話し合きましょう♪

### 〈 テーマ 〉

- ① 移動・買い物ニーズに応えたいチームづくり:1層
- ② ゴミ屋敷に引きこもりの方を支えたいチームづくり:2層・3層
- ③ 地域の中で皆が集まる居場所を作りたいチームづくり:2層・3層



## やってみようチームづくり(グループ演習)

○**グループ作り**・・・前後の席で6名前後のグループを作ります。

### ○**自己紹介タイム**

1. 名前
2. 所属
3. 一番好きなアイスクリーム

### ○**必要なもの**

広用紙、付箋紙、マジック

### ○**ルール**

- ① 司会、書記、発表の3人を決める。
- ② テーマを選ぶ
- ③ チームに必要な社会資源(人や団体、物や場所など)を付箋紙にかき出す。
- ④ 付箋紙にかき出した社会資源が何故必要なのか説明します。
- ⑤ 必要な資源を組み合わせて、課題解決の為にチームを作ります。チームメンバーが少なすぎても、多すぎても上手くいきません。最適な人数を考えてください。
- ⑥ 創り出したチームがどのように動けば課題が解決するかをシミュレーションします。



## グループ演習のタイムテーブル

内 容		時 間	
グループ作り & 自己紹介 & 役割決め		5分程度	
グループ 演習	社会資源の書き出し	10分程度	30分程度
	チームづくり	10分程度	
	課題解決に向けた シュミレーション	10分程度	
発 表		25分(5分×代表5グループ)	
合 計		<b>60分</b>	

〈守ってね〉

- ・メンバー皆が発言できるよう意識しましょう(司会者の方は特に意識してください)。
- ・疑問に関しては批判ではなく、質問と対話で話を深めましょう。

## 発表タイム

「×モ」



# カリスマSCによる チームづくりの事例報告

宮崎県日向市・・・中里さん

福岡県うきは市・・・相良さん

大分県国東市(別紙)・・・宮田さん



【参考事例：宮崎県日向市】ミクロ（ケア会議）からマクロ（協議体、事業）への移行



1 ケア会議を活用した地域課題の抽出と仕訳（ミクロ）

課題抽出

- 生活圏域別地域ケア会議
- 自立支援型地域ケア（個別）会議

課題仕訳

- 行政・包括・SC定例会

課題解決

- 住民主体型（協議体）事業（自助・互助）
- 介護保険型（保険者主体）事業（共助・公助）

2 協議体を活用した住民主体事業の創設（マクロ）

課題抽出

- 引きこもりの高齢者に対する外出支援がない
- 栄養管理ができず、心身機能が低下する恐れ

課題仕訳

- 住民主体（互助）による見守り支援
- 介護保険サービス（公助）による栄養改善支援

課題解決

- 住民主体（互助）⇒ごはんクラブの創設
- 総合事業訪問型サービスC、配食サービス



- 八重原ごはん倶楽部
  - ・参加者23名
  - ・男性も厨房に入り手伝い。
  - ・生活支援サポーター、ボランティアが調理中に、コグニサイズ、しりとりを実施



- 当日のメニュー
  - ・豆腐、しいたけ、ひき肉のハンバーグ
  - ・ピーマンとじゃこ、おかかの和え物
  - ・そうめんとシイタケのお吸い物
  - ・紅麴入りごはん
  - ※野菜は持ち寄り。
  - ※参加費は100円／人



- 今後の展開
  - ・東郷町生活圏域内10地区のうち2地区で設立
  - ・平成29年度は、生活支援サポーター、ボランティアの負担が大きくなり過ぎないように、月1回の開催
  - ・平成30年度は、他地区への展開、回数の増を検討⇒8地区へ増加、住民主体型介護予防教室の後に実施
  - ・総合事業サービスBへの展開を検討中

# 【参考事例：宮崎県日向市】ミクロ（ケア会議）からマクロ（協議体、事業）への移行



## 1 ケア会議を活用した地域課題の抽出と仕訳（ミクロ）

課題抽出

- 生活圏域別地域ケア会議
- 自立支援型地域ケア（個別）会議

課題仕訳

- 行政・包括・SC定例会

課題解決

- 住民主体型（協議体）事業（自助・互助）
- 介護保険型（保険者主体）事業（共助・公助）

## 2 協議体を活用した住民主体事業の創設（マクロ）

課題抽出

- 地区に集いの場がない。運営する人がいない。
- 素人には無理。無償ボランティアでは続かない。

課題仕訳

- 住民主体（互助）による集いの場の運営
- 地元商店街による地域支援

課題解決

- 住民主体（互助）⇒財光寺ルーピンの会を創設
- 住民主体（互助）⇒活動実績により商品券を発行



- ボランティア団体の創設
  - ・ 会員約30名
  - ・ 約10地区で活動
  - ・ 全市的にサポーター養成講座を実施



- 地元商店街の協力
  - ・ 生活支援コーディネーターが調整
  - ・ ボランティア回数に応じ、商店会より商品券を贈呈



- 住民主体の介護予防教室
  - ・ 生活支援サポーターの運営による介護予防教室の実施（財光寺ルーピンの会）



- サポーターの養成講座
  - ・ 全8回シリーズの介護予防サポーター養成講座を実施
  - ・ 運動器、認知症など専門職による講座
  - ・ 生活支援サポーターが運営



# チームで進める方法について ～うきは市の事例から～



うきは市第1層地域支え合い推進員  
相良 照美

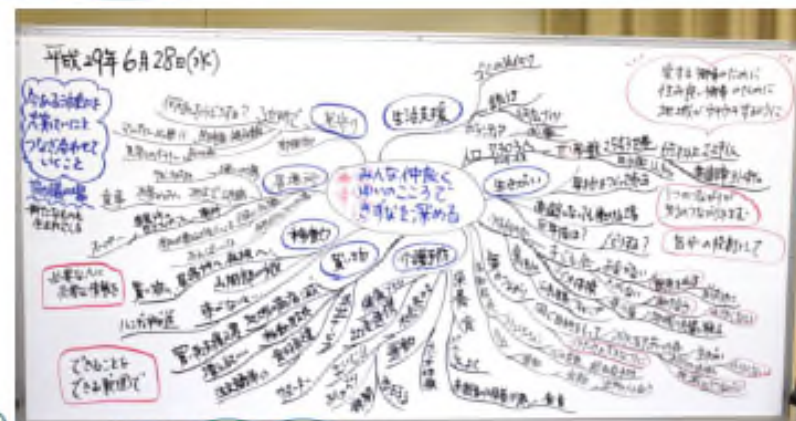
# 1. 市と地域支え合い推進員、社協が連携して進めています①

- 協議体については、協議体づくりの勉強会の段階から、事前打ち合わせを市と支え合い推進員で重ね、住民と一緒に説明をしています。
- 勉強会や協議体ではグループに市（包括支援係、介護高齢者支援係）、社協地域係等がそれぞれ入ってグループワークを進め、実際の地域の生の声を聞く場を設けています。勉強会や協議体の最後には、各グループから出た意見を発表してもらい、地域支え合い推進員でホワイトボードに見える化していき、参加者みんなで振り返りを行っています。
- 毎回、地域支え合い推進員が前回の振り返りの資料を作成し、アンケートとともに振り返りの会議を保健課と持ち、次回の協議体をどのような内容とするのか、グループワークのテーマをどうするのかなどを一緒に考えています。



後ろで発表の内容を必死に書いて  
いる地域支え合い推進員(^^)

各グループから出た意見を参加者から発表し  
てもらいます



地域支え合い推進員  
がまとめ、参加者みんな  
で振り返ります(^^)



グループに、市職員や社協職員が入り、グループ  
ワークを進め、実際の「地域の生の声」を聞き、  
小さいホワイトボードにまとめます！





# 1. 市と地域支え合い推進員、社協が連携して進めています①

- それぞれの持ち味を生かしながら、連携して進めています。

介護予防の説明は…  
市の健康運動指導士さん



市の公共交通のことは…  
市の企画調整係（担当部署）よりお話をもらいます



市長の参加もあります！



グループワークはおまかせ！  
社協地域係の職員です！



在宅医療介護連携の説明は…  
市の保健師さん



毎回、みんなの連携でこのまとめができています！

## 2. 地域の事例を入れながら、地域と一緒に協議体を進めています



糸丸野菜SHOPについて



大石地区のラジオ体操



住民の生活支援サービス



限の上区の寺子屋活動  
あいの会の見守り活動  
サンピットの移動販売

・協議体では、なるべく地域の生活支援や介護予防の事例を入れることを心がけ、発表者と地域支え合い推進員で打ち合わせを何度も行い、分かりやすい資料を作成するようにしています。

・地域の方や企業、社会福祉法人等が取り組んでいる事例を発表していただくことで、参加者も身近に生活支援や介護予防を考えていただけているようです。



タクシー会社の  
交通サービス



社福の社会貢献活動



上古賀のよりあい活動  
末石区の青年会の活動  
企業の弁当・食材配達



週1回の集いの場「いきいきサロン」



千足三丁目の公民館開放



### 3. 協議体では、市内の介護事業所の方、企業の方との連携も進めています



**退院時の福祉移送サービス**

Let's Join us

音ながらのつながりを。

ご相談・ご予約 (9時~17時)  
**0943**

特別養護老人ホーム水月吉井  
担当：久保山・河角

**要 旨** うきは市浮羽町・吉井町 及び 久留米市田主丸町へ帰宅される方

**対 象** 車椅子等の機器が必要な方  
※費用の発生があります。ご利用の際は詳細な説明書の読み合わせをお願いします。

**目 的** 定みられた家で暮らし続ける支援を目的として、ご利用のハード面をサポートします。  
※定員に達した場合は受付停止となります。

**予 約** 事前相談・事前予約が必要です  
※費用の発生や車椅子等の機器が必要なため事前に相談し、予約のうえをお願いします。

**支 援** 無料送迎時福祉移送サービス  
※送迎・リフトサービスは別途費用がかかります。ご利用の際は詳細な説明書の読み合わせをお願いします。

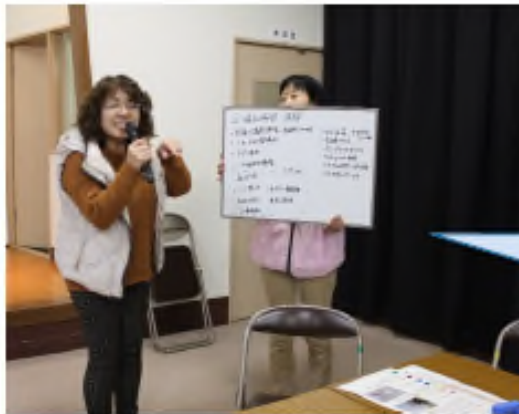


協議体での意見を聞かれ、社会福祉法人の社会貢献活動にて退院時の移送サービスをはじめていただいています

協議体には、勉強会の段階から、市内の介護事業所、社会福祉法人、企業の方もご参加いただいております、「こんなことができますよ」という提案などもいただいております！



エフコープさんから…  
「受け取りステーションを、オープンしますが、地域の居場所として活用しませんか？」との提案も…



ある社会福祉法人の職員さんから…  
「勉強会に参加してみて地域のことがよく分かった。いろんなことに困っていると分かったが、施設で何か協力できたらいいな。」との意見も。

住民の心にひびく  
カリスマSC決めゼリフ



## わたし達のお仕事

### **生活支援コーディネーターの仕事はチームづくりとチーム運営**

**地域づくりは1人ではできない。**

**沢山の人の力を集めること。その為に人と人を繋げること。**

**繋げるために地域を知ること。地域の人の力を知ること。**

**そして、信じ任せること。**

**私たちはチームづくりとチームの運営を期待されるが、監督ではなく、コーチでもない。審判でもなく、プレイヤーでもない。**

**私たちは、チームを愛するサポーター、  
チームを信じるサポーター。**

**私たちサポーターの存在がチームを奮い立たせ、躍動させ、  
そして、勝利をつかませる。**